

千葉県奨学資金貸付金について

(質問)

千葉県奨学資金について、貸付金不用額が約 9 億 500 万円となっているが、令和 2 年度の貸付状況と最近の傾向はどうか。

(入江委員)

(回答)

奨学資金貸付の原資は、貸付者からの返還金及び前年度からの繰越金で、その見込額の総額を歳入予算と計上している。

この予算については、特別会計であり、在学生への貸付金額となる歳出予算額を歳入予算額の規模で計上する必要があり、歳入額に合わせた歳出額を計上するため不用額も大きなものとなっている。

令和 2 年度につきましては、貸付額は約 2 億 87 百万円、貸付者数は、898 人となっており、最近の傾向としては、貸付者数は、平成 25 年度をピークに減少傾向で、貸付額よりも返還額のほうが多い状況となっている。

(勝財務課長)

(質問)

収入未済額について、約 1 億 6700 万円となっているが、その対象者数と内訳、県立私立といった区分があるが、その状況についてどうか。

(入江委員)

(回答)

令和 2 年度の滞納者数につきましては、1,120 人となっている。

県立学校とそれ以外の内訳について、県立学校分が 302 人、それ以外の分については、818 人となっている。

(勝財務課長)

(質問)

滞納者の対応については返還猶予、もしくは分納等の選択肢があると思うが、その状況についてどうか。

(入江委員)

(回答)

大学等へ進学など返還猶予の条件に該当する者に対しては、本人からの申請を受けて、返還猶予をしている。すでに滞納となっている部分に対し、分納の相談があった場合にはそれに応じる等のきめ細かな対応を行っている。

分納につきましては、過去に行った人や分納を継続して行っている人など様々なケースがあり、具体的に人数を把握できていないが、返還猶予制度を利用している者は、令和 3 年 3 月末時点で 617 名となっている。

(勝財務課長)

(質問)

返還猶予は 617 名ということで、分納とは別の扱いと思うが、長期で滞納している方の、具体的な状況とどのような対応になっているか。

(入江委員)

(回答)

過年度の滞納者に対しては、文書電話等による催告を行っている。

催告電話で滞納者から受けている話では、生活に困窮しているなどの理由と、連絡になかなか応じてもらえない、納付約束をしたのに納付意識が希薄で払わない者がいる等と聞いている。

なお、最も古い滞納者については、平成4年6月期の2万円からとなっている。

(勝財務課長)

(質問)

払える方ばかりではないかと思うし、そのためのいろいろな分納であったり、猶予だと思うが、過去に、延滞利息が14.5%と平成29年度までになっていたかと思うが、平成4年から滞納している方については、どのように具体的に対応しているのか。

(入江委員)

(回答)

平成28年度から、専門的知識を有する債権回収業者への委託を行っており、その中でこの方についても対応している。

令和2年度は弁護士法人に委託しており、約500万円を回収している。

(勝財務課長)

(質問)

きめ細かな対応をしていると理解するが、奨学金自体がローン返済と同じような意味合いがあって、数百万円の負債を負っている方が非常に増えている。大学生の2人に1人がさらに利子付きの奨学金を借りている状況にいる。

給付型の奨学金、国の方でも一部創設されたが、県としても検討状況について、現在どのように進められているのか。

(入江委員)

(回答)

非課税世帯や生活保護世帯に対しては、奨学のための給付金という制度があり、各学校においては当該制度の周知に努めている。

また県では国に対して、当該制度の拡充に関して、全国都道府県教育長協議会等を通じて要望を行っている。

(勝財務課長)

(要望)

国の方で制度が拡充されることも望ましいが、当面県民に対しても非常に格差が拡大して、経済的に苦しいご家庭が増えているため、給付型の奨学金を拡充できるのかについても、引続き検討していただきたい。

(入江委員)

夜間定時制高等学校夕食費補助について

(質問)

令和2年度の不用額776万3,071円となっているが、予算決算はどのようになっているか。

(入江委員)

(回答)

学校給食費は、夕食費補助の他に、栄養教諭等の研修費や給食施設備品費等も含まれており、不用総額 776 万 3,071 円のうち、夕食費補助事業に係る不用額は 315 万 7,800 円である。

なお、夕食費補助事業に係る最終予算額は 648 万円であり、決算額は 332 万 2,200 円となっている。
(荒金学校安全保健課長)

(質問)

補助該当者に対し、実際どの程度の補助申請があり利用していたのか。

(入江委員)

(回答)

令和 2 年度は、17 校ある定時制高校全体で 190 名から申請があり、178 名が利用した。補助の対象となりうる生徒数は 457 名であり、約 39 パーセントの利用率となっている

(荒金学校安全保健課長)

(質問)

17 の定時制について、夕食の利用がないあるいは極めて少ない学校はどこか。

(入江委員)

(回答)

令和 2 年度において夕食の利用がない学校は、東葛飾高校、匝瑳高校及び 木更津東高校であり、極めて少ない学校は、松戸南高校、銚子商業高校及び 館山総合高校である。

(荒金学校安全保健課長)

(質問)

令和 2 年度に夕食に関するアンケートを行ったとのことだが、その結果をどのように分析対応しているのか。

(入江委員)

(回答)

夕食に関するアンケートについては、定時制高校の在籍生徒全員に行っている。

アンケート結果については、回答を集約し学校へフィードバックすることで、より良い夕食提供の資料としている。

また、生徒に夕食への希望を調査することで、夕食メニューの改善に努めている。

(荒金学校安全保健課長)

(質問)

夕食提供の内容や業者、弁当の価格についての具体的な改善について、学校現場任せではなく県教育委員会として踏み込んで対応すべきだがどうか。

(入江委員)

(回答)

今年度は、11月から12月にかけて、全ての定時制高校における夕食状況を視察訪問している。

その際、管理職から夕食の利用状況や魅力向上に向けた取組、課題などを聞き取り、献立の変更や業者への要望を示唆しているところである。(荒金学校安全保健課長)

(要望)

来年度において、これまで夕食の利用がない、あるいは極めて少ない学校が利用できている状態になるように、県教育委員会が責任をもって、夕食費補助の事業目的に照らし合わせて、利用を促進していただきたい。(入江委員)

千葉県立美術館について

(質問) 令和2年度の美術館入場料231万9390円とあるが、入場者数は例年と比べてどうか。新型コロナにより中止した展示や講座等の状況やその影響はどうか。(入江委員)

(回答) 令和2年度の入館者数は、元年度の122,238人に対し、25,418人と約8割減少した。背景には、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止した、特別展「日本文化の華大相撲展」や千葉県美術展覧会などの団体展、また陶芸などの講座やワークショップを中止したことが影響している。(田中文化財課長)

(質問) 美術館の魅力を高めて入場者数を増やすためには展示の充実を図る必要があるが、令和2年度における事業内容と予算・決算額、美術館全体に占める割合はどうか。(入江委員)

(回答) 令和2年度の事業内容は、展示事業で近代洋画の父「浅井忠」のコレクションを中心に、関連するバルビゾン派の絵画を中心としたコレクション展をはじめ、「魔法の手ロッカクアヤコ作品展」などを開催した。
予算・決算については、施設整備費を除く館全体の予算額は160,019千円に対し、決算額が146,476千円余りで、そのうち展示に占める割合は予算・決算ベースともに約25%となっている。(田中文化財課長)

(質問) 博物館振興費だけが展示に係る事業予算ではないのか。(入江委員)

(回答) 博物館振興費は「県立美術館活性化事業」の予算項目である。このほかに、常設展等は、博物館管理費に含まれていることから、令和2年度の展示事業の決算額は、33,749千円となる。

(田中文化財課長)

(質問) 博物館振興費は、いつから予算項目にあるのか。また、美術館の活性化を図るためにどのような方策が必要と考え、取り組んでいるのか。

(入江委員)

(回答) 博物館振興費の予算項目は、令和2年度からとなる。

美術館の活性化を図るためには、集客力のある展示の開催や、子供たちが芸術家と直接触れ合う機会の提供などの取組を推進することが必要であると考えている。こうした取組の一環として昨年度は、「魔法の手 ロッカクアヤコ作品展」などを開催し、若い世代の利用拡大につなげてきた。

今後は、美術館の活用の幅をさらに広げる取組として、ワークショップや創作体験、学校向け鑑賞教室など、参加型のプログラムを充実させ、さらに多くの県民が日常的に美術館へ足を運び、文化芸術に親しむことができるよう、県立美術館の活性化に向けて、より具体的な方策を検討していく。

(田中文化財課長)

(要望) 県立美術館について、予算の拡充を財政当局へ要求していただきたい。

(入江委員)